

ラジオNIKKEI

マルホ皮膚科セミナー

2021年10月25日放送

「第37回日本臨床皮膚科医会 ①

大会を終えて」

皮膚科早川クリニック
院長 早川 道郎

はじめに

第37回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会が、2021年4月24日（土）、25日（日）帝国ホテル東京で行われました。この総会は、年1回、全国47都道府県を10ブロックに分けた持ち回り形式で行われ、東京ブロック（東京都皮膚科医会）の担当としては、2010年5月に大路昌孝先生のもとで行った第26回総会以来です。日本臨床皮膚科医会（略して日臨皮）は、他の医会と異なり、開業医が多く加入しており、地域医療に密着し、明日への診療に役立つ内容や日頃、個人で診療をしている先生方の情報交換の場としても重要な会となっております。その総会への打診は、私が会長になった2018年（平成30年）の8月頃に、当時日臨皮会長の若林正治先生はじめ執行部からありました。その時点で私は、過去2回、（第16回楠俊雄先生と第26回大路昌孝先生）、総会をお手伝いさせていただきましたので、その経験をもとに、有能な理事の先生方とともに総会を成功へ導きたいと考えました。

早速、理事会に諮り、全会一致で承認され、第37回総会をお引き受けすることとなり理事会と同時に開かれていた日臨皮3ブロック合同学術集会にて、その旨を報告いたしました。



日本臨床皮膚科医会 会長 江藤 隆史先生と

総会に向けて

テーマは、「美しい皮膚への道」としました。人体の最前線で戦う皮膚、隠された謎の多い神秘的な皮膚、そして健康な美しい皮膚、そこに立ち向かう皮膚科医の気持ちを私なりに表現しました。

また、東京開催ということで、ロゴマークは東京タワーと東京スカイツリーを日臨皮のロゴマークと組み合わせたデザインとしました。

会場選定には、何より多忙な先生方の利便性と、また当総会の大きなイベントである招宴会、懇親会を満足頂き、楽しい一時となるようにと帝国ホテルを選び準備を進めておりました。

コロナに振り回される

総会開催に向けて準備が進む中、2020年初頭から新型コロナウイルスが世界的に拡大、日本でも憂慮する事態となってきました。オリンピックの1年延期も決まり、理事会では第37回総会はウェブで行っては、という意見も出始めました。

理事は、開業医、病院勤務医などから構成され、その立場によって様々な意見があり、開催形式の一本化は諮れませんでした。私は立場の異なる医師達からなる、この総会の意義を踏まえ、ハイブリッド開催に拘っていました。4月には首都圏に緊急事態宣言が出され、6月まで医学系学会は殆ど中止となりました。7月から感染者数の減少が認められたものの11月になり再び感染者数が増加傾向となり、会場のキャンセル可能時期が迫るなどコロナの先行きも見通せず、再びウェブ開催妥当という意見が病院所属の理事から出てきました。

その後、年が変わり、緊急事態宣言が発動され、総会開催まで3カ月を切るなか、総会費用に関する収支の予想が、セミナー・シンポジウム関係の協賛金は確保されていましたが、コロナ禍のため展示・広告は出展希望が少なく、ハイブリッド開催も危ぶまれる状況となり私が唯一、ウェブへの変更を考慮せねばと悩みました。

しかし、全理事が予算獲得交渉を重ね、また日臨皮の諸先生方のお力添えで多くの参加登録数を頂くこととなり、難局は回避。ところが、3月21日緊急事態宣言解除後、すぐに感染者数の増加傾向がみられ、開催数日前から再度の緊急事態宣言発動の動きが出て、急遽、24日はハイブリッド、25日はウェブ形式での変則開催となりました。

第37回
日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会
The 37th
Annual Meeting of Japan Organization
of Clinical Dermatologists

美しい皮膚への道
うつくしい
ひふへの
みち。

会期
2021年 4月 24日 [土] 25日 [日]

会頭
早川 道郎 [皮フ科早川クリニック]

副会頭
佐々木りか子 [梨の花ひふ科]

実行委員長
原田 栄 [原田皮膚科クリニック]

プログラム委員長
鳥居 秀嗣 [東京山手メディカルセンター皮膚科]

財務委員長
谷戸 克己 [佃リバーシティ皮膚科]

事務局長
丸山 陸児 [まるやま皮膚科クリニック]

会場
帝国ホテル東京
東京都千代田区内幸町1-1-1

ポスターセッションのライブ配信

コロナ禍に於かれ、総会開催の形態自体が問われる状況で催された今回の総会でしたが、ポスターセッションについては、初めての試みとして会期中のみでしたがライブ配信を行い、興味深い、そして、日々の診療に繋がる症例発表の機会を開業医、勤務医の先生方と共有し、優れた演題に対しての援助としてマルホ賞、また日常診療に役立つユニークな演題に東京都皮膚科医会賞を授与することとしました。(文末参照*)

講演・シンポジウム

また特別講演1は、国立国際医療研究センター国際感染症センター長 大曲貴夫先生に「COVID-19」について現状と今後の展望についてのご講演をいただきました。

特別講演2は、日本医師会常任理事で中医協の委員でもいらっしゃる松本吉郎先生に「診療報酬改定」やコロナ禍の診療について、ご講演をいただきました。

シンポジウムについては各領域のエキスパートに演者および座長をお願いし、個性豊かでまとまりのよいものになりました。また、東京都医師会に東京都各科医会協議会という組織があり、整形外科および精神神経科の分野から、「皮膚科でよく診る他科疾患」と題してのご講演をお願いしました。

「皮膚科医のための外来英会話」の再編

総会記念事業として、今回は第16回東京での総会で編纂した、「皮膚科医のための外来英会話」を20年ぶりに理事全員で再編することにいたしました。この20年間の皮膚科診療における進歩に合わせて内容を一新、さらに電子書籍といたし、当日、会場に参加頂いた先生方には、カード型USBメモリの形で配布させていただきました。

尚、当日参加されず、ご興味ある場合は、医書jpで購入可能です。外来診療でお役に立つものと考えております。

総会を振り返って

総会を振り返って、結果的に1,800名ほどの参加者があり、また感染者が出ることもなく、1日のハイブリッド開催でしたが、お互い顔を合わせられる機会があり、また展示スペースを設けられたことは大きな収穫であったと思います。

私が最後まで拘ったハイブリッド開催、そして従来型での総会のあり方は、特に開業医である私からみると、大学病院、市中病院などと密に連絡をとる病診連携であったり、新しい医療機器、スキンケア商品など幅広く日々の診療に役立つコミュニケーションや情報が得られる大切な機会ではないかと改めて感じました。

一方、反省点としては2日目が、急遽、ウェブ開催となり、日臨皮および東京都皮膚科医会のホームページでお知らせしましたが連絡が行き届かず、結果的に日本皮膚科学会の

専門医単位取得ができず、ご迷惑をおかけした先生方にはお詫び申し上げます。ご来場いただいた先生方、ウェブで参加していただいた先生方に深く感謝いたします。

おわりに

最後にこの総会に関わった、すべての方に御礼の言葉を述べさせていただきます。

運営事務局の方々には学会の準備から開催まで大変お世話になりました。また、協賛会社はじめ、大会に参加していただいた会社には、リスクの多い中、強力な援助をいただきました。理事一同、一丸



となって各分担をパーフェクトに果たしてくれたお陰です。改めて、参加した先生はじめ、携わった皆さまに感謝します。なお、次回第38回総会は九州鹿児島で島田辰彦会頭のもとで開かれます。ワクチン接種が進み、コロナも収束し、先生方と再びお会いできる総会を楽しみにしております。

*ポスター賞

一マルホ・高木皮膚科学振興財団による「高木賞」

最優秀賞 順天堂大学浦安病院 栗原麻菜先生

優秀賞 日本大学 葉山惟大先生

優秀賞 慶應義塾大学 八代 聖先生

優秀賞 福岡大学 宮地素子先生

一東京都皮膚科医会賞

赤穂市民病院 和田康夫先生

弘前大学 赤坂英二郎先生